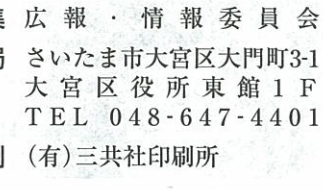
PTA saitama.city
さいたま市PTA協議会
http://www.saitama-city-pta.jp

市P協 さいたま

No. 16
平成21年2月24日
発行 さいたま市PTA協議会
編集 広報・情報委員会
事務局 さいたま市大宮区大門町3-1
大宮区役所東館1F
TEL 048-647-4401
印刷 (有)三共社印刷所

山懐に抱かれて
～舘岩少年自然の家視察研修～



平成20年8月30日（土）、31日（日）の2日間、さいたま市PTA協議会の主催で、市の教育施設である「舘岩少年自然の家」の視察研修が行われた。研修のねらいは、「子どもたちが宿泊体験する活動・施設に実際に肌で触れ、保護者の立場で施設の運営のあり方や整備・充実について考えてみよう」というもの。市PTA協議会の年に一度の恒例行事となっており、今年度は市内小中学校のPTA会長を中心に32名が参加した。

「舘岩少年自然の家」は、東北自動車道「西那須野塩原IC」から約80㎞、バスで約2時間かかる福島県南会津町の山里に建てられた施設。市内の小学校5年生や中学校2年生の生徒を対象として、夏は源流体験やイワナのつかみ取り、冬はスキー教室などをはじめとした自然体験活動が実施されている。

今回の視察研修の特徴は、これまでの「体験」中心の内容に、初めての試みとしてボランティアでの「環境整備活動」が加わったことだ。まず大工仕事に心得のある男性は現地に常駐する所員用宿舎の修繕、それ以外の体力自慢の男性はグループに分かれ、施設の裏山（ネッシー山）に登下山するための木段づくりや施設周辺の側溝清掃、また女性は、雑草が生い茂った、敷地内の花壇の除草作業などを担当。すべての参加者が技や体力を活かし、子どもたちがお世話になっている『施設』に感謝の気持ちを込めて、（フラフラになりながら）スコップや鎌などを手に2時間半たっぷりと汗を流した。

▲木段作りはコツが必要

▼暑さとの戦いだった除草作業

2日目には子どもたちと同じように、地元のお年寄りを講師とした「そば打ち」や、自然の家所員指導のもと「イワナさばき」といった体験活動に参加。生きているイワナが包丁でさばかれるのを見て、「子どもたちはうまくできるのかしら」と所員に尋ねながら、後ずさりする女性参加者もいた。

文部科学省は学習指導要領を改定し、小・中学校では平成21年4月から新しい教育内容がスタートする。その中で、「集団宿泊活動や自然体験活動などの豊かな体験を通した道徳性の育成」が方針の一つとして掲げられている。

視察研修最後の退所式で、所員の方から「さいたま市は『新学習指導要領』の教育内容を先取りしている」という誇らしげな挨拶を聞き、保護者としてどこか頼もしい気持ちがした。さらに「施設がホントに綺麗になりました。来年度はもっと大勢でお越しください」という声を背に受けながら、秋の訪れにはまだ早い山里の施設を後にした。

さいたま市ＰＴＡ協議会役員研修会
～人が人らしく幸せに生きるために～

11月28日（金）平成20年度さいたま市ＰＴＡ協議会役員研修会が、さいたま市民会館おおみやにて開催された。今回で第5回となる研修会では、人権教育推進協議会等と共催し、人権啓発講演会を行った。

第1部は、人権標語・人権作文の表彰式が行われ、最優秀作品に選ばれた市内小中学校の児童・生徒が表彰された。

第2部は、ドキュメンタリー番組「ゆっぴいのばんそうこう」でお馴染みの俳優 石井めぐみさんにご講演いただいた。

障害を抱えたお子さんの成長を通じて体験された、人権に関する知見をお聞きし、演題である『やさしい街やさしい人』を考える機会となった。

「車イス用駐車場は空いていますか?」「エレベーターは車イスやベビーカーなど必要な人がいつでも利用できますか?」との問いかけに、ほんの少しの気づかいで、誰にでもやさしい街をつくることができるのだと気付いた。

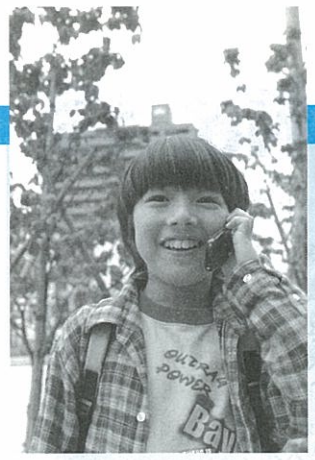
また、「現在、障害者やお年寄りが外に出にくい環境でも、助けが欲しいとき誰かが手をかしてくれると思える街なら外に出て行ける」「困っていそうな人がいたら、立ち止まって目を合わせてほしい。それだけで声がかけやすくなります」との話に、こちらから声をかけることに臆病であっても、ちょっとしたしぐさから手助けができることを知った。

「人権を考えることはいのちを考えることです」

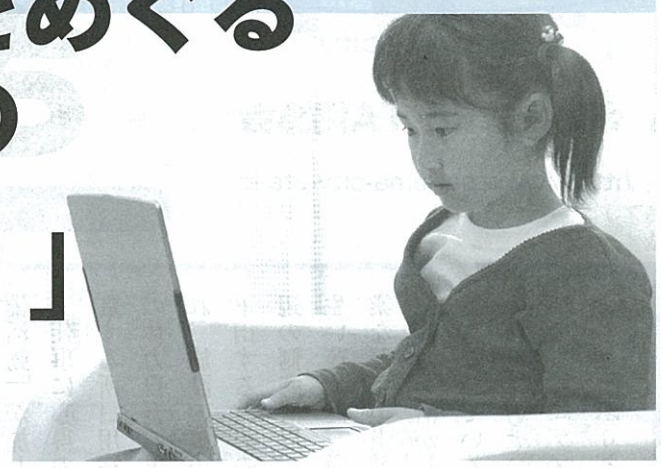
石井さんのラストメッセージが、ずしりと心に残った。子を想う親の気持ち、いのちの大切さがダイレクトに伝わってきて、涙をぬぐう聴講者の姿があちらこちらに見られ、会場は深い感動の渦に包まれた。

▶講演「やさしい街やさしい人」

特集



「子どもと保護者をめぐる携帯・ネットの最近事情」



昨年11月、市内の小・中学校より2校ずつ、それぞれ小学5年生と中学2年生の児童・生徒とその保護者を対象に、携帯電話・インターネット（以下、『携帯』・『ネット』と省略）の利用状況等に関するアンケート調査を実施した。

その結果、小5は今や3人に1人が携帯を持っており、中2になると5人に2人が所持するようになることが判明した。ネットの利用率は小5で78%、中2で85%と、大変多くの子どもたちが使用している実態が明らかになった。

「親と子で意識の違いが…」

保護者が子どもに携帯を持たせる理由は、小・中ともに『子どもとの連絡のため』と回答する比率がもっとも多く、半数を超え、ついで防犯対策が30%強となっており、塾などで帰宅が遅くなりがちな、現代の子どもをめぐる生活事情がうかがえる結果となった。

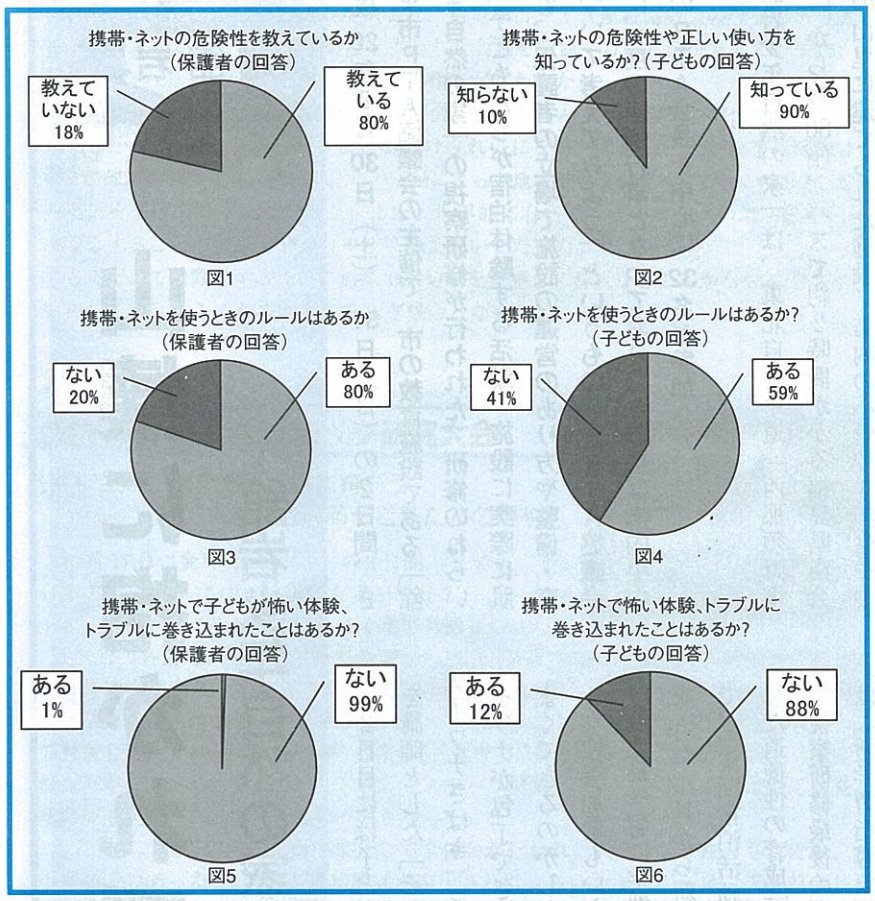
また、携帯を持っている小5は通話で使う割合と同じ程度にメールも使用しており、これが中2では、通話よりもむしろメール目的で利用する比率が高くなることが分かった。

このように普及率の低年齢化が急速に進む昨今、携帯やネットを利用する上での危険性について、子どもに教えていると回答した保護者は、小・中ともに8割程度である。一方、その危険性を知っていると回答した児童・生徒は9割を超えており、殆どの子どもが知識としてはきちんと把握している様子がうかがえた。（図1、図2）

さらに家庭で携帯・ネットを使うときのルールはあるか?との問いに、保護者の8割が『ある』と回答。（図3）これに対し、小5で6割、中2で5割がルールが『ある』と回答しているのに留まり、保護者との意識の乖離がくっきりと表れる結果となった。（図4）

だが、今回の調査でもっとも親子の認識の差が明らかになったことは、子どもが携帯・ネットで怖い体験やトラブルに巻き込まれたことの有無である。『ある』と回答した小5の保護者が、わずか1%であったのに対し、現実には12%の児童が怖い体験が『ある』と回答しているのだ。（図5、図6）

一方、中2ではこの比率が逆転する結果となった。小5では、知識や経験の不足から怖いと感じる事柄が、中2になると、そうした怖い体験にもだいぶ『慣れ』て、保護者の意識以上に『平気』になっているものと推察される。しかし、その体験の内訳を見ると、チェーンメール等、一つ対処を過ると深刻なトラブルに見舞われるものが散見され、予断を許さない。



「ワンクリック詐欺体験記」

今回のアンケートでは、多くの児童・生徒より「携帯やネットは、便利だけど怖い」という素直な意見が寄せられた。そこで、もしもトラブルに見舞われたらどうなってしまうのか、実際に本紙記者が体験してみた。

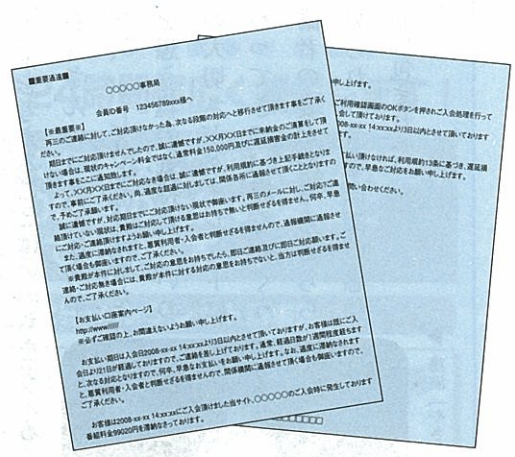
記者のPCに来ている迷惑メールの中から、怪しげなものを探し出し、サイトにアクセス。淫らな画像が並ぶ、甚だ目のやりどころに困るサイトである。そのうちの一つの画像をクリックすると、たちまち「情報収集中」というテロップが流れるアニメーションが立ち上がった。やがて「ご契約ありがとうございました」という画面に切り替わる。そこには、こちらのPCの情報がズラズラっと表示されていた。IPアドレス、プロバイダー名、使用OS、使用ブラウザである。請求金額はキャンペーン中ということで10万円弱だった。

はじめてこんなシーンに出くわしたら、この段階でパニックになり、頭が真っ白になってしまう人も多いことだろう。これはワンクリック詐欺と呼ばれる「不当請求」の手口である。一見、こちらの情報が吸い上げられているかに見えるが、実はこれらの情報はパソコンがネットに接続する際に、当たり前に流している情報なのであり、これだけでは決して個人を特定することはできないのである。

こういうときの対処は、何事もなかったようにサイトを立ち去るのみである。決して相手の言いなりになって、お金を支払ってはならない。ワンクリックによる契約の締結は違法行為であり、不当な請求には応じる必要がない。無視することが正解なのである。

但し、何も実害がなかったわけではない。その後、1ヶ月以上にわたり、毎日、ほぼ一時間毎に架空請求メールが来るようになったのである。この場合も対処は同じで、ひたすら無視することである。メールアドレスから個人を特定することはできないからだ。

請求メールは、時間の経過とともにその文面が次第に脅迫じみたものに変わってゆき、それでも放置し続けているうちに、やがてぷっつりと来ないようになった。今回、記事にするために、わざわざ詐欺の罠を踏んでみたのだが、それでも請求メールを読むと不快な気持ちになることを拭いきれない。その文面は「嘘」と「ハッタリ」のオンパレードである。読み手の精神を不安に陥れ、お金を払わせることが目的なのだから当然なのだろうが、気分を害することこの上ない。また、その後も、全く記憶にない請求やいかがわしいサイトへの勧誘メールがひきも切らずやってくるようになった。精神的な安定のためにも、やはり危険なサイトには近寄らないことを切にお勧めしたい。



△このようなメールが執拗に送られてくる。

今回、取材のためにあえてワンクリック詐欺のサイトにアクセスしましたが、サイトによっては、さらに個人情報を奪い取るソフトをインストールしてくるものもあり、大変な危険を伴います。決して真似をしないでください。

拝啓　お父さん出番です！

最近、保護者会などの学校行事にお父さんたちの姿をよく見かけるようになりましたね。しかし、主に平日の日中に活動しているＰＴＡは、お母さん方がほとんどであるのが現状です。もちろん平日は家族のために一生懸命お仕事をしているお父さんが、ＰＴＡ活動に参加するのが困難なのはわかっています。でもお父さんに、「子どもの学校での様子を見てほしい」「子どもの友だちのことも知ってほしい」そして学校のことをもっともっと知ってほしいのです。

今回、市内各校ＰＴＡに「父親のＰＴＡ参加」についてアンケートを行なったものをまとめてみました。各ＰＴＡが様々な工夫をしているのが分かるので、お父さんも読んでくださいね。でも本当は、かわいいわが子がどんな学校生活を送っているのかを自分の目で一番見たいのはお父さんですよね・・・。

それではお父さん、学校でお待ちしています！

敬具

お父さん　ご協力ありがとうございます

『父親が多く参加・協力している活動』は、小学校・中学校ともに「奉仕活動」「運動会・体育祭」への参加が多い。次に、小学校では子どもと楽しむ「バザー・お祭り」への参加が多く、中学校では子どもを見守る「パトロール」への参加が多いようだ。少数回答ではあるが、「ＨＰ作成と運営」「行事カメラマン」「書架製作」など、パソコン・カメラ・大工仕事のように専門的な活動もあり面白い。

参加の多い活動

学校や地域への奉仕活動
学校整備、ペンキ塗り
クリーン活動、除草・剪定作業

運動会・体育祭
ＰＴＡ競技への参加
テント設営やグランド整備など

ＰＴＡ主催のバザー・お祭り
屋台、会場設営

パトロール
夜間巡回活動、行事の警備

スポーツ
スポーツ大会
親子レクリエーション

お父さん　ご参加お待ちしています

『父親に参加してほしい活動』は、力仕事や夜間パトロールが多くあげられた。最近の女性は強くなったと言われるが、やはり男手が必要で父親を頼りにしているのがわかる。また「地元のことを教えて欲しい」「社会人としての経験を語って欲しい」など、子どもたちの地域学習や職業学習の協力も望まれているようだ。

欲を言えば、総会や保護者会などに参加してもらい、ＰＴＡや学校の取り組みを知り意見が欲しいと願っているが、まずは子どもが通っている学校の様子を知るきっかけにして欲しいと活動への参加を待っている。

『父親と学校のかかわり』について、学校は家庭との連携が不可欠なことを挙げ、「家庭で父親と母親が子どもの情報を共有していることが理想」とする意見が多い。「父親・母親それぞれの考え方が反映されているＰＴＡ活動であってほしい」と期待する声もあった。

お父さん　この想い届いていますか

『父親の参加を促進する工夫』は、「ご案内に父親へ向けたメッセージを入れる」「開催を休日や夜間にする」などの工夫や、「スポーツ大会」「活動後に懇親会を開く」など楽しんで参加ができるような父親向けの企画を考えているＰＴＡも多い。

圧倒的に母親の多いＰＴＡ活動に父親が参加しやすくするには、いくつかのステップを踏むと良いようだ。

[ステップ1] 親子もしくは家族で参加できる行事を企画し、初めての参加でも不安にならない状況にする。

[ステップ2] 敢えて力仕事の必要な行事を企画し、父親の協力を切に願う。

＊この段階で、参加した父親同士は少しずつ顔見知りになり、挨拶を交わすようになっていれば次のステップへ

[ステップ3] スポーツ大会・レクリエーション・懇親会など、参加者に楽しんでもらえる企画でたたみかけ、リピーターをゲットする。

[ステップ4] リピーターとなった父親を中心に、口コミで友だちから友だちへと父親の輪をひろげる。

時間はかかるかもしれないが、少しずつステップを踏むことも大切なのかもしれない。

レポートおやじの会

今回、PTAとは別に父親で構成された、いわゆる『おやじの会』にもアンケートを行った。

おやじの会は、子どもたちの健やかな成長を願いさまざまな活動をすることで、子どもたちと交流を深めている団体である。主な活動は父親同士の親睦や情報交換、学校・PTAへの協力、地域活動への参加などで、父親目線から子どもたちを見守っている。

市内でも多くのおやじの会が活動しており、その中から3つの団体をピックアップし自己紹介を掲載した。父親の心をつかむヒントにしてほしい。

埼玉大学教育学部附属特別支援学校「しいの木林を守る会」

本会は、在校生60名の父親による会で、年に数回日曜日を中心に活動している。

本会の目的は、父親が積極的に子どもたちの活動をサポートすることである。子どもたちの日々の活動を充実させるとともに、参加した父親が達成感をもてるようにしている。さらに、本会の活動を通して、顔見知りになるなど父親同士のつながりが生まれている。

具体的な活動として、校庭の除草・整備、七夕竹飾り作りと親子レクリエーション、餅つき大会、運動会や学習発表会の警備を行っている。この他に懇親会、地域の行事である日進七夕祭りに参加している。

太田小おやじの会

当会は平成8年11月10日発足以来12年余り、年平均40名の会員にて活動しています。発足の動機は教育環境の悪化（暴走族・いじめ・不登校等）への対応に関して、学校にまかせっきりでなく、また悪を正す労より予防する方が大切との観点で「子どもの問題は、自分の子どもだけの問題でなく、地域の問題であり、子どもたちの将来を思えば、今、労を惜しんではおれない」との思いでした。会員構成は校長・教頭・男性教諭・父親他からなり、有益な情報提供に努めています。活動は①学校行事協力②独自企画で、①運動会では設営撤去作業と運営で、危険の伴う男手が必要なことをし、バザーでは焼きそばを600食販売して盛り立てています。オレンジのユニフォームを着て活動していると非会員や上級生も手伝い、「ありがとう！」で行事を終えていきます。②は今まで、そば打ち・陶芸・プロ野球観戦・料理・絵手紙等、家族で楽しむことをし、夏休みにはＰＴＡ共催で「命を守る着衣泳」をしています。着衣泳指導は永続的開催を容易にするため、有志7名が資格を取り指導に当たり、チームウキウキを編成し、近隣都県の指導協力もしています。秋恒例、清水公園デイキャンプはプロ料理人がつくる絶品料理の数々・・・です。当会は「強制せず・楽しむ」をモットーに仕事優先の父親が全活動に参加困難は明らかな中で、「知恵を貸してください」と有益情報提供をお願いし、活動は参加可能な方が実施して楽しく貢献するようにしています。誰かに負担をかけたなら永続きしませんし、仕事の合間を見つけて共生に努め、皆で楽しいひとときを創り出しています。

太田小は教師・ＰＴＡ・おやじの会が三位一体となり子どもたちの成長を楽しく援助できる素晴らしい学校です。

→命を守る着衣泳

着衣泳研究会HP
http://hts.nagaokaut.ac.jp/surindex.htm

土台中学校おやじの会

活動人数は14名。ほとんどサラリーマン。昨年4月26日発足。お父さんの姿があまりに見えない現状を変えたい気持ちで、深く考えずに文書で全校生徒を通じ、活動のお願いとともに会員登録を呼びかけた。

集まったメンバーで夏の防犯活動、学校敷地内の樹木伐採処理、土の入れかえ、体育祭の警備をおこなっている。そして何よりも大切にしているのが、先生方も参加する交流会。腹を割っての情報交換は、悩み・ストレス解消に役立ち、家庭円満につながり喜ばれている。

参加は決して無理を強いない。活動してよかったという充実感からか、意外にも喜んでみんなが集まってくる。

特集

指定都市研究大会

第64回指定都市ＰＴＡ連絡協議会研究大会「身近なところから少しずつきれいにしていこう」

10月2日（木）、3日（金）の2日間の日程で第64回指定都市ＰＴＡ連絡協議会研究大会千葉大会が開催され、さいたま市ＰＴＡ協議会から5名が参加した。

1日目は、会長・事務局長会議と情報交換会に分かれて、それぞれ意見交換を行った後、全体で交流会を行った。

会長・事務局長会議では、文部科学省と日本ＰＴＡ協議会への要望事項や、食育、携帯電話・ネット関連、大人のモラルについて等、幅広く意見交換が行われた。

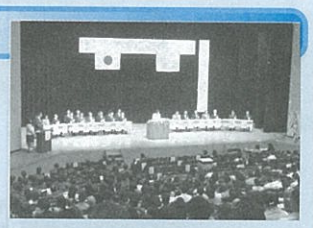
情報交換会では、ＰＴＡ活動の活性化をテーマに、家庭の教育力を高める活動と父親の教育・ＰＴＡ活動への参加状況（おやじの会）について、各協議会が発表を行った後、出席率や意識の向上のために、どんな工夫改善が必要か意見交換が行われた。

2日目は、早朝から会長会議が開かれ、指定都市ＰＴＡ連絡協議会の今後のあり方についての議論がなされ、情報交換を主とした会議を開催することが決定した。また、全体会において、その報告と前日の会議の報告が行われた。

引き続き行われた記念講演では、株式会社イエローハット相談役の鍵山秀三郎氏を講師にむかえ、「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」と題し、氏が創業以来続けている清掃活動の取り組み状況や、その活動によって地域や学校が変わっていく様子を、数々の実例を挙げてお話いただいた。また、世界的に有名なニューヨークの地下鉄を例に、掃除をすることの効果を分かりやすく教えていただいた。

あらためて掃除をすることの意味や大切さを実感し、身近なところから少しずつでも、継続して実行することの大事さを知る機会となった。

日本ＰＴＡ関東ブロック研究大会



「共に生き、共に支え、共に育もう、未来を彩る子どもたちの夢を」

10月17日（金）、18日（土）の2日間、第40回（社）日本ＰＴＡ関東ブロック研究大会が熊谷市のサンルートガーデンパレスをはじめとする4会場で開催された。

1日目は各会場に分かれて分科会が行われ、さいたま市からは、西区連合会の山田会長（馬宮中Ｐ会長）が、第5分科会で「区連合会と地域との連携」をテーマに、「西区小中学生夏休み作品展」や「中学校スポーツ大会」など地域と連携した活動内容について発表した。その他の会場では、「安全」「食育」「情報モラル」「家庭モラル」「家庭教育力」等についての発表が行われた。どのテーマにおいても、単なる発表でなく活発な意見交換が行われ、中身の濃い一日となった。

2日目は、熊谷会館に全員が集合して全体会が行われ、大会宣言が決議された後、昨年度功労のあった15名の方に感謝状が贈呈された。さいたま市からは、天野前会長と神生前副会長が表彰された。続いての記念講演では、百マス計算で有名な陰山英男氏が内閣官房「教育再生会議」有識者委員の立場から、教育力アップへの熱い思いを語られ、参加者全員が聞き入っていた。

この大会を通じて学んだことや感じたことを各連合会や各校ＰＴＡに持ち帰り、今後の活動に活かすことにより、子どもたちをより健全に、よりたくましく育てて行こうという決意を胸に、2日間の大会は幕を閉じた。

さいたま市教育委員会との交流会

10月10日（金）浦和ワシントンホテルで、さいたま市ＰＴＡ協議会とさいたま市教育委員会との交流会が開催された。

本交流会は参加者が年々増えており、今年度は157名が出席した。

交流会の冒頭あいさつで藤間教育長が「さいたま市は学力テストにおいて、全ての部門で全国平均を上回った。さらに学習状況調査についても良い結果が得られ、しつけや生活態度の向上も見られた」と報告。出席者は皆感心していた。

懇談会では、ＰＴＡと教育委員会がテーブルを同じくして意見交換を盛んに行った。この会を通じて、子どもたちの将来を見守るためのより良い関係を築くことができ、大変意義ある会合となった。

日本ＰＴＡ全国研究大会

「こしとねばりのある子に育てよう」

関東地域では大雨に見舞われた8月23日（土）、24日（日）。残暑厳しい中、讃岐うどんで有名な香川県で第56回日本ＰＴＡ全国研究大会「かがわ讃岐路大会」が行われ、さいたま市ＰＴＡ協議会を代表して13名が参加した。

1日目は8分科会に分かれ、著名な講師陣による基調講演や実践発表、パネルディスカッションなどが行われた。

特別第1分科会「今、携帯を持つ子どもたちに起きている事実　－おとなの果たす役割と責任－　」においては、さいたま市ＰＴＡ協議会の天野顧問がパネリストとして参加した。特別第2分科会は東北大学川島隆太氏の特別講演「読書で脳を活性化する」が行われ、自ら研究したデータをもとに、脳科学を分かりやすく説明した。

2日目は高松市総合体育館で全体会を開催。大会宣言・決議が採択され、引き続き「角界の新弟子における規範意識」を演題に脚本家の内舘牧子氏による記念講演が行われた。

懇話会

7月17日（木）市役所本庁舎第2別館で、さいたま市教育委員会学校教育部指導2課の先生方を講師に迎え、第1回懇話会「親子支援プログラム」の体験講座が行われた。

参加者が自分の子どもになりきって、父親・母親である自分を子どもの目を通して自己紹介したり、2人1組になって背中に手を当ててもらい温かさを感じたりしながら、「子どもの気持ちの受けとめ方」「子どもの視点に立った、とるべき態度」「子どものやる気に応じた言葉のかけ方」など、親が子どもと人間関係を深めるスキルを学んだ。

※指導2課ではPTA向けに「親子支援プログラム」体験講座の講師派遣も行っています。

年が改まった1月30日（金）ときわ会館で、指導1課の先生方を講師に迎え、第2回懇話会が行なわれた。

主な内容は、「学びの向上さいたまプラン」「学習指導要領改定のポイント」「小・中一貫潤いの時間“英会話”」「確かな学力にかかわる研究指定」「子どものための体力向上サポートプラン」等の説明。「ゆめをもち、未来を切り拓く、さいたま市の子ども」という市の目指す子ども像を実現するために、市教育委員会が行なっている様々な施策や実践を知るとともに、保護者の理解・協力が欠かせないことを改めて感じさせられる良い機会となった。

サークル活動

卓球大会

11月10日（月）駒場体育館で、卓球協会協力のもと、大会が開催された。

市内10チームが参加しての真剣勝負。気合と熱気あふれる試合が繰り広げられ、その姿は皆とても輝いていた。

また、講習会も同時に行われ、協会員の丁寧な指導のもと、楽しんで受講している姿が見られた。

親善ビーチボール大会

11月29日（土）岩槻市民文化公園体育館で、さいたま市ビーチボール協会協力のもと、大会が開催された。役員チーム30校、一般チーム25校が参加。11コートに分かれ、コート優勝を目指して熱戦が繰り広げられた。

今年は岩槻区以外から混成チームや単独チームの参加が増え、例年以上に試合・応援とも、活気にあふれていた。

ケガをする人もなく、無事に大会を終了できたのは、ひとえに各チームの日頃の練習の成果。来年も熱い戦いを期待したい。

コーラス祭

今年で第8回となるＰＴＡコーラス祭が、12月7日（日）大宮ソニックシティで開かれた。昨今は地域とのつながり等に取り組んでいるＰＴＡもあり、現役の役員のみならず、ＯＢも含めて参加したコーラス隊もあった。

忙しい中、練習の時から心を一つにしてきた皆さんの素晴らしい歌声に、最後まで盛り上がった催しとなった。

さいたま市内の国立・市立小中高・養護学校へ通っている児童・生徒の皆さんの事故を24時間幅広く補償します！

さいたま市ＰＴＡ協議会
「児童・生徒ワイド補償制度」加入受付中！
（団体傷害総合保険）

毎年、多くの方々に新規ご加入いただき、現在では13,600名の生徒の皆様にご加入いただいております

補償制度の特長

1. 一般加入と比べて44%割引のお得な保険料
2. 学校管理下・管理外を問わず「24時間補償」
3. 傷害補償は、入院・通院とも「1日目から補償」
4. さらに入院は「1000日まで補償」
5. 加入児童・生徒の扶養者に万一のことがあった場合の「育英費用補償」
6. 加入児童・生徒がストーカー犯罪やひき逃げ事故に遭われた場合の「被害事故補償」

いつでもご加入いただけます！
（年間保険料3,000円から）

※本広告は制度の概要のみを記載したものです。ご契約に際してはパンフレットをご参照ください。

さいたま市PTA協議会ホームページ　http://www.saitama-city-pta.jp

当制度のお問い合わせ先・パンフレット請求先

さいたま市PTA協議会「児童・生徒ワイド補償制度」係
（事務局）さいたま市大宮区大門町3-1　大宮区役所東館1Ｆ
取扱代理店：（有）池田保険事務所
〒336-0932　さいたま市緑区中尾1424
〔お問い合わせ先〕　TEL:048（875）9133　FAX:048（810）1502

引受保険会社（株）損害保険ジャパン（幹事会社）
埼玉支店さいたま総合支社販売推進グループ
さいたま市大宮区桜木4-82-1　ＴＥＬ048（648）6063
AIU保険会社 東京海上日動火災保険（株）　SJ07-10612　2008年2月5日作成